



CASA連続市民講座

第21期 地球環境大学

ビビっとくる「でんき」の話

第2回講座 暮らしの中の省エネ・節電

とき：2013年7月27日(土)13:30～16:30

場所：大阪科学技術センター 404号室

第2回講座は、暮らしの中の省エネ・節電について、ひのでやエコライフ研究所の鈴木靖文さんから講演、2013年夏の電力需給予想についてCASA専務理事の早川光俊からの講演、「グループディスカッション」、「グループ発表」、「質疑応答」、「うちエコ診断」受診者発表&案内、「私の省エネ・エコなとりくみ」の案内という内容になりました。

講演「暮らしの中の省エネ・節電について」

鈴木靖文さん

3.11の原発事故後、節電が進められ図1に示すように、いずれの電力管内でも効果が出て

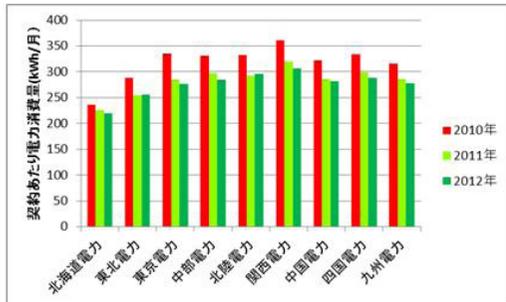


図1 原発事故前後の夏(7～9月)の電力各社の家庭の節電効果 従量電灯 AB の1契約あたりの消費電力量統計(電気事業連合統計)より

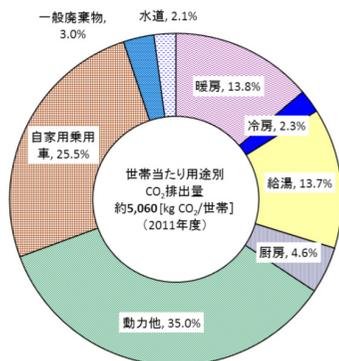


図2 家庭のCO₂排出量の内訳(2011年度) 温室効果ガスインベントリオフィスより

いる(2012年は2010年比で7～17%削減)。

家庭のCO₂排出量の内訳は図2のようになっており、給湯が約14%を占めている。給湯では、電気を直接熱に変えてお湯を沸かす、効率の良くない電気温水器がまだまだ多く使われているという問題がある。その点、エコキュートはヒートポンプを使っているので効率が良いが、貯湯槽から10～20%の熱が逃げる、余裕をもって多めにお湯を作ってしまうなど問題がある。

これらの点から、オール電化により、環境負荷を増やしてしまったと言える。

家電機器について、購入する時はカタログや省エネラベルなどをよく見ながら決める必要がある。冷蔵庫で、340ℓの3ドア冷蔵庫の年間電気代が約1万円、465ℓの6ドア冷蔵庫の年間電気代が約6千円、つまり大きい冷蔵庫の方が電気代が安いという事例がある。

照明器具は電球よりも蛍光灯、さらにLEDが省エネになる。LEDは値段が高いが、寿命が長いので、最終的なコストは最も安くなる。

こまめに消灯するのが省エネになるかどうかがよく話題になるが、点灯の時の電力消費はほ

んの一瞬であり、こまめに消す方が省エネになる。

講演「2013年夏の電力需給予想」

早川光俊

2012年夏、電力需給が逼迫するとして関西電力は国民の反対を押し切って大飯原発3号機、4号機を稼働させたが、結果的に原発再稼働がなくても十分な予備力があつた。

電力需要のピークを乗り切るには、省エネ、電力融通、需給調整契約、揚水発電がある。関西電力はこれらを過小に見積もっていた。

グループディスカッション

A、B、Cの3グループに分かれて、各自記入した付箋をグループの模造紙に貼っていき、それを基にグループディスカッションを行った。



グループ発表

休憩の後、グループの席の周りに全員が集まって、代表が発表を行った。いろいろな角度から幅広い「取り組み」の紹介となった。



質疑応答

Q. 節電の意識が低い人に対してはどうしたら良いか。

A. 意識が低くても節電が進むような仕組みが必要だろう。例えばかつて問題になったフロン冷蔵庫、今では一切使われなくなった。このように環境の意識が高かろうと低かろうと、買い替えると必ずノンフロンになっている。これらのことを消費者から企業に働きかけていくことも必要である。

Q. 揚水発電とはどういうものか。

A. 本来は原子力発電の電気が余る夜間に水をくみあげて昼間におとす発電で現在はピーク時電力の供給にまわされている。

Q. 電力融通とは何か。

A. 供給余力のある電力会社から、供給力不足の電力会社に電力を送ることである。

「うちエコ診断」受診報告

地球環境大学の第1回講座参加者から2名の受診者の報告があつた。

「私の省エネ・エコなとりくみ」募集

今回出た多くの「取り組み」を「私の省エネ・エコなとりくみ」に取り入れることとし、さらなる参加の呼び掛けがなされた。

講座に参加して

今回の方式のグループディスカッションは、とても良かったと思います。

山田 直樹 (CASA ボランティア)